

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：金川廣一郎
国語科指導法Ⅰ（初等）	必修科目	2単位	担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>国語科指導の基本、話す・聞く力、書く力、読む力をつけるためのポイントを理解する。小学校の国語科指導法と幼稚園の言語領域「言葉による伝え合い」などの教材研究と授業モデルなどを通して国語科の授業を行うための知識と技能の習得を目指す。具体的な国語科指導を経験し、教育実習においても自らの考えをもって授業を行うことができるようになることを目的とする。授業を通して、指導者としてふさわしい言葉の力を獲得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>子どもに「言葉の力」を育むための指導方法について、具体的な教材や実践例を通して、様々な角度から考えさせる。実際に言語活動を行い、今必要な「言葉の力」についてグループディスカッションや体験を通して考えさせる。ICTを活用した授業、デジタル教科書の活を用いた授業を取り入れる。</p>			
<p>授業計画 通信：第1回～第7回 面接：第8回～第15回</p> <p>第1回：「国語科の構造」国語科とはどのような教科なのか、国語と国語科の違いは何か。国語科成立の基本を理解する。</p> <p>第2回：「今、求められる言葉の力① ～PISA型読解力と国語科～」 PISA調査からみえる日本の子どもたちの言語に関する課題を明らかにする。</p> <p>第3回：「今、求められる言葉の力② ～21世紀スキルと国語科～」 21世紀型スキルについて理解し、国語科においてコミュニケーション能力とコラボレーション能力を培う必要性について理解する。</p> <p>第4回：「国語科教育の歴史～変わるものと変わらないもの～」 学習指導要領「国語科」より、国語科の目標の変遷について理解し、新学習指導要領で求められている「言葉の力」について理解する。</p> <p>第5回：「児童文学を読む①～絵本の世界 子どもを読書好きにするために～」 絵を読む、絵から想像を広げることを実際に体感したり、読書紹介を書いたりしながら、子どもが読書する意義について理解する。</p> <p>第6回：「児童文学を読む②～絵本の世界 教科書とのかかわりを読み解く」 教科書教材を読むだけでなく、教材から発展して、子どもの読書をどのように広げていくかを考える。</p> <p>第7回：「教科書教材を読む①～文学的文章について～」 学習指導要領「国語科」の目標に照らして、文学的文章の指導のあり方について理解する。デジタル教科書を有効に使った授業の工夫について考える。</p> <p>第8回：「教科書教材を読む②～説明的文章について～」 学習指導要領「国語科」の目標に照らして、説明的文章の指導のあり方について理解する。デジタル教科書を有効に使った授業の実践について考える。</p> <p>第9回：「国語科と特別支援教育～子どもの困り感に気付き、支援する方法～」 学級に6.5%は在籍するという特別な支援を要する子どもの理解と、国語科における具体的な支援方法について考える。「読む・書く・推論する」ことに困難を示す子どもへの支援のあり方デジタル教科書を活用して、授業の改善を図る。</p> <p>第10回：「言葉と表現①～様々な書くことを通して～」 学習指導要領「国語科」における「書くこと」領域の指導について理解する。具体的な指導案を作成し、模擬授業を行う。</p> <p>第11回：言葉と表現②～対話、討論などを通して～学習指導要領「国語科」における「話すこと・聞くこと」領域の指導について理解する。指導案を作成し、模擬授業を行う。</p> <p>第12回：「古典に親しむ①～伝統的な言語文化に触れる～」 小学校における古典の指導と中学校・高等学校での古典の指導との違いについて学び、授業をどのように展開するかを考える。ICTを活用した授業を体験する。</p> <p>第13回：「古典に親しむ②と書写指導～子どもと伝統的な言語文化～」 生活の中で息づく伝統的な言語文化について学び、子どもたちの言語生活の中に、文化を楽しく取り入れる方法について考える。</p> <p>第14回：「メディアと言葉～メディアリテラシーについて考える～」 学習指導要領「国語科」解説にある「情報の取り扱い」について学び、国語科における情報教育のあり方について考える。</p> <p>第15回：「学習指導要領「国語」を俯瞰する」 学習指導要領「国語科」が、実際の授業の中にどのように位置づけられているかを確認し、講義のまとめを行う。事後レポート提出</p>			
テキスト：「小学校国語科授業研究」田近洵一、塚田泰彦、大熊徹編（教育出版）			
参考書・参考資料等 国語辞典、あるいは電子辞書			
学生に対する評価：通信：課題提出（3課題）及び最終課題提出（小論文）面接：模擬授業及びレポート提出			